2013年2月14日開催

第3分区A・B合同 インターシティ・ミーティング

基　調　講　演

鈴木雅博パストガバナー

本日は、国際ロータリーの現況につきまして、お話をさせていただきたいと思います。

田中作次 RI 会長の考えにつきましては、ロータリーの友で毎号紹介されておりますので、もう既にご高覧のことかと思いますが、私どもは日頃、自らの職業奉仕、また社会奉仕に４つのテストやロータリーの網領を心がけながら、実践をしているわけでございますが、この事は取りもなおさず、将来に向かって毎日奉仕の実践活動という事に通ずるのではないかと思うわけでございます。

これから国際ロータリーの現況と、それから当面の課題についてお話をさせていただきます。

皆様、お分かりのようでなかなかご理解頂いてないのは、国際ロータリーの組織運営でございます。国際ロータリーの本部はご高承のように、アメリカ、イリノイ州のエヴァンストンにございます。　エヴァンストンはシカゴ市の隣接都市でございます。この本部におきましては、国際ロータリーの運営は、本年度は田中作次 RI 会長の元で、会長エレクト１７名の理事会メンバーによって行われております。日本からは理事として、RI 第 2780 地区
神奈川、松宮剛理事がご参加をされてるわけでございます。

国際ロータリーの理事の任期は２年でございます。松宮理事は現在１年目の理事としてご活躍でございますし、来年度からは、第１ゾーン エレクト RI 第 2770 地区パストガバナー北 清治が理事に就任をなさいます。

RI は、国際ロータリーの奉仕活動を推進するために、多くの資金を必要と致します。そのため国際ロータリーの組織とは別のロータリー財団を法人として設立しております。
１９８３年イリノイ州の非営利活動法人として、国際ロータリーのロータリー財団の名称で設立され、今日に至っております。
これは主として、寄付金の扱いについてのアメリカにおける税法上の取扱いが一番大きな理由で、財団が別の法人になっているという事でございます。

ロータリー財団の運営につきましては、１３名の管理委員、トラスティーによって行われています。RI 第 2780 地区のパストガバ

ナーで国際ロータリーの理事をお務めでございました小沢一彦様は、４年間ロータリー財団の運営にあたっておられた方でございます。
１３名のロータリー財団の管理委員の内の、４名は国際ロータリーの元会長が就任するという事にロータリーの細則で定められております。　大変この管理委員は重責を負っておられて、また、大変多忙な要職でございます。
　ロータリー財団の管理委員の任期は、４年でございます。国際ロータリーとロータリー財団とは重要事項については、緊密な連携を取る事が国際ロータリーの細則で要求されております。国際ロータリーとロータリー財団の重要な業務を支える事務局でございますが昨年度より 10 年勤めました、エドウィン・フタ事務総長に替りジョン・ヒューコ事務総長が就任され６００人の職員が働いております。
　海外事務局は日本、スイス、韓国、インド、オーストラリア、ブラジル、アルゼンチンの７ヶ所でございます。

海外事務局は、２００人以上の職員がおります。日本事務局は
本年６月着住。小林宏明所長以下、１２名の職員が日本事務局ではついており、私共、日本のロータリアンの仕事をサポートすること、また、国際ロータリーの本部の伝達事項等に誤りがないように期すという事で働いてくれてるわけでございます。
　国際ロータリーの組織運営の現況をかいつまんで申し上げますと、以上の通りでございます。ここで、当面の課題について申し上げたいと思います。
　第一番目にはやはり、組織をポール・ハリスが４人で始めた組織が、現在の規模にまでなっているわけでございますが、世界的なロータリーに対するニーズを収束するためには、どうしても大きな組織が必然的に必要になってきております。
　会員増強につきまして、現在では、全世界のロータリアンの数が９月末では、１２２万人を維持してます。私のガバナー年度、２００１～２００２年クロバルリクエスト会員増強活動を展開しました。

会員数１５０万人増強を目標に展開しました。時には
５５，０００人増強し、４．６％増強しました。その会員数と本年度は同じであります。日本の場合不況から脱出できない低迷状態が続いておりますので、皆様の御尽力にも関わらず、
８９，０００人に１，０００人程減少致しました。その為現在では、世界のロータリアンの１０％は日本かと言われてた永年の割合が崩れまして、この９月末では７％という割合に落ち込んでおります。

田中作次 RI 会長エレクトは先の国際大会に於いて、会員増強について「会員増強は会員数だけを目標とすべきではありません。会員数を増やす為だけに新入会員を入れてもロータリーは強くなりません。ただ入会できる人ではなく、ロータリアンとなれる人を入会させて始めてロータリーは強くなれるのです。会員を増やしたいと云う理由で入会をお願いする事はできません。ロータリーが入会に相応しい団体であり、ロータリーのお陰で幸せになれる事を説明しなければなりません。勧誘を行うのは入会者の為でもあるのです。入会を通じて自分と同じ幸せを味わってもらいたいと思います。」
と述べられたそうです、この事は正にロータリーに於ける会員増強のあり方を訴えられているのではないでしょうか。

また、モンティ・J・オーディ RI 増強委員長は、「国際ロータリーはロータリーの会員増強と維持における課題が文化圏によって異なり、型にはまった解決方法はうまくいかない事を充分理解している。RI 理事会は去る９月新たな３年計画を承認した。この計画ではガバナーとその他のロータリアンが、それぞれの地域に特化した会員増強・維持計画・行動案を立案実行する事が可能になる。２０１５年までの３年間、毎年３％ずつの会員を１３０万とすることを目標とした」。と述べ、型にはまらず柔軟で地域にあった無理のない増強を提唱しています。

次にロータリー財団の問題についてご報告をさせていただきたいと思います。
国際ロータリーでロータリー財団の年次寄付、一人１００ドルという目標を掲げております。もうご高承の事かと思いますが、ロ

ータリー財団の寄付の種類を大別致しますと、年次寄付、恒久基金寄付、それから、使途指定寄付と大きくわけますと、３つにわけられるわけでございます。

そうして年次寄付というのは、人の制限のないいわゆる無条件の寄付でございます。シェアーシステムを通じまして、３年後に、我々の寄付が３年後、我が第 2790 地区に活用されるわけでございますが、この無条件寄付でございます年次寄付を、一人１００ドル目標を掲げております。

ロータリーセンタープログラムについてお話を申し上げます。

ロータリーセンタープログラムは、２００２年からのロータリー財団の新しいプログラムでございますが、国際親善奨学生、もう既に６０年の歴史を刻んでおります。４万２千人以上、日本８千人の若者が外国において、勉学する機会をロータリー財団は提供してまいりました。この国際親善奨学生プログラムの長い歴史と経験の中から、焦点を世界平和の担い手という点に絞って開発され、あみ出されたプログラムが、ロータリーセンタープログラムでございます。

紛争の解決と平和における国際問題研究のためのロータリーセンター、ロータリーの平和理念と合致した教育方針を立て、そして教育実績を有する７つの世界の大学、いや８大学が７つのロータリーセンターとして選ばれまして、９月から２年間、マスターコースで勉強する機会をロータリーは提供しているわけでございます。

「平和及び紛争解決の分野における国際問題研究のためのロータリー平和センター」プログラムは、ロータリー平和センターといわれるロータリーと提携した大学で、修士号または修了証プログラムに参加するための奨学金で、仕事や奉仕活動や奉仕活動を通じて国内外で平和及び紛争解決を推進するリーダーとなる人材を育成することを目標としています。

２００２年プログラム開始以来、６００人以上のフェローがこのプログラムに参加し、学友の多くが、平和と紛争の解決の分野で活躍しています。この秋から第１１期生として、日本から３名の新しいフェローが、このプログラムに参加します。

第２７１０地区(広島)推薦の新屋由美子さんはイギリスのブラッドフォード大学、第２５５０地区(栃木)推薦の大阿久裕子さんと第２７９０地区推薦の宇野かおりさんは、日本の国

際基督教大学で学びます。

１２期生(２０１３－１４年度留学開始)の募集はこの７月１日で締め切られました。初年の日本からの推薦は１１名でしたが、今回の推薦は３名のみでした。すべての地区はDDFの寄贈の有無と関わりなく、何人でも候補者を推薦できます。候補者は必ずしも地区内に居住している必要はなく、電話やインターネットを利用した面接も可能です。２０１４年の申請書は１１～１月頃に WEB に掲載される予定です。多くの地区からのご推薦をお待ちしております。

東京三鷹にある国際基督教大学(ICU)は、世界に６つあるロータリー平和センターの一つです。毎年およそ１０名のフェローが２２ヶ月間、平和と紛争解決の分野について学んでいます。　ICU の所在地である２７５０地区がホスト地区として、周辺の２５８０地区、２５９０地区、２７７０地区、２７８０地区、２７９０地区がホスト・エリアとして協力してフェローの受入を行っています。

２０１２年９月からは第１１期生として日本から推薦された２名を含む１３名のフェローが新たに研究を開始します。海外からのフェローは学期開始に先立ち１～２ヶ月の日本語研修に参加します。第２７５０地区のパスト・ガバナー久邇(ｸﾆ) 邦昭様がホスト・エリア・コーディネーター(HAC)として、フェローとロータリアン、ICU との連絡や調整などにあたります。

News ！　６月に ICU を卒業したマーク・フラニガンさんが第２８回佐藤栄作賞の最優秀賞に選ばれました。

これを支えるために６地区、東京近辺の６地区がホストエリア地区として、お手伝いをしていただいてるわけでございまして、当２７９０地区もロータリー財団このプログラムに

パイオニア地区という事でご貢献を頂いております。　地理的に近いという事も合わせて、ホストエリア地区の一つに、ロータリー財団の方では指定されました。

このロータリー平和フェローシップは、これから２１世紀のロータリー財団のプログラムの中で、大変大きな意味を持つプログラムに発展していくということが予想されます。なかなか選考が厳しいので、希望者が少ないというのが残念ではございますが、外務省のホームページその他、いろいろな方法をとって、このロータリーセンターの希望者を増やすための活動をしてまいりました。

２１世紀の世界は、多くの異なる民族、異なる文化、異なる宗教に属する人々が、他の存在を認めあい、理解しあい、親善を結ぶ事によって共生する世界であると思います。　この考えが崩れたところで、紛争や戦争が発生しております。

ロータリーの組織の特徴は、各地区やクラブの多様性を前提としております。

現在２００ヵ国に３万４千余のクラブが存在しておりますが、世界１２３万人のロータリアンは、このロータリーの組織の多様性ということを理解していると思われます。そう考えてまいりますと、２１世紀はロータリーの国際理解と親善が全人類共通の理念となる、理念としなければならないと、私は思います。

どうか皆さん、明るい２１世紀、平和の２１世紀を築くために、お互いにロータリーで力を出し合い、奉仕活動に励みたいと思います。　ご静聴を頂きまして大変ありがとうございました。